

令和7年度
事業報告

公益財団法人日本パラスポーツ協会

《 目 次 》

I 基本方針	1
II 令和7年度の具体的な施策	
ミッション1	2
ミッション2	8
ミッション3	11
ミッション4	21
ミッション5	23
ミッション6	26
その他	28

I. 基本方針

2021年3月に策定した「JPSA2030年ビジョン」に基づき、「ミッション1」から「ミッション6」に掲げた施策を推進し、「活力ある共生社会の実現」を目指した。

- ミッション1 パラスポーツの普及拡大
- ミッション2 関係団体との連携・協働体制
- ミッション3 競技力の向上とパラスポーツの価値・魅力の向上
- ミッション4 パラスポーツを通じた国際協力
- ミッション5 パラスポーツの理解促進
- ミッション6 パラスポーツの発展に向けた万全な基盤づくり

本年度は、当協会が1965年に設立して以来60周年を迎え、60周年史の発刊や主催大会への冠を付すなどの取り組みを実施した。また2021年に策定した「JPSA2030ビジョン」の中間年となった本年は、これまで実施してきた各事業のレビューを行い、残りの5年間の活動につなげる。

滋賀県で開催した全国障害者スポーツ大会は、「環境に配慮し実践する大会」「おもてなしで滋賀の魅力発信」「スポーツの力でつくる共生社会」「子ども、若者、女性が活躍」のメッセージのもと、リサイクル金属でのメダル作成や競技会映像の配信（障スポチャンネル）などの取り組みに加え、各会場でカームダウンスペースを設置するという新しい試みを実施した素晴らしい大会となった。

ドバイ2025アジアユースパラ競技大会、ミラノ・コルティナ2026パラリンピック冬季競技大会の開催、また国内で初めてデフリンピック競技大会が開催され、重要な国際大会に日本代表選手団を派遣し、次世代選手の育成から世界のトップレベルを目指す強化まで、次年度の愛知・名古屋アジアパラ競技大会に向けて大きな成果を築きました。

このほか、都道府県・指定都市パラスポーツ協会などの関係団体と連携・協力を図り、障がい者が日常的にスポーツに参加できる環境整備を行い、地域における障がい者の活動拠点となるパラスポーツセンターの全国展開や機能強化に向けた取り組みを実施するとともに、引き続き、指導者の養成・確保のための講習会やレベルアップ研修会の開催、地域におけるパラスポーツ振興事業への支援などの事業を進めた。

世界で活躍できるアスリートを支援するため、競技力向上施策、専任スタッフ等の配置などの体制整備、競技団体への支援を行うとともに、未来のトップアスリートを発掘・育成するJスタープロジェクトの開催、アンチ・ドーピング教育の開催、学校でパラリンピック教育を行うIPC公認教材「I'mPOSSIBLE」日本版の普及・啓発、IPCをはじめとする国際関係機関との連携・協力を図った。

「活力ある共生社会の実現に寄与する」という理念のもと、パラスポーツの更なる発展のため、引き続きJPSA及びJPCオフィシャルパートナー制度や寄付金の受入れなど、財政面での安定化を進めた。

II. 令和7年度の具体的な施策

ミッション1【パラスポーツの普及拡大の実現】

障がいのある人たちが、障がいの種類や程度、ライフステージやニーズに応じて、身近な地域で日常的にスポーツを楽しめるような環境を整え、パラスポーツの普及拡大を実現に向けて事業を行った。

「1-1」パラスポーツの普及拡大の環境づくり

(1) 全国障害者スポーツ大会の発展

1) 全国障害者スポーツ大会（公益財団法人 JKA 補助事業）

会 期 令和7年10月25日（土）～27日（月）
開閉会式会場 平和堂 HATO スタジアム（滋賀県彦根市）
愛 称 わた SHIGA 輝く障スポ2025
スローガン 湖国の感動 未来へつなぐ

2) 地区予選会（公益財団法人 JKA 補助事業）

会 期 令和7年4月～6月
内 容 ブロックごと（北海道・東北ブロック、関東ブロック、北信越・東海ブロック、近畿ブロック、中国・四国ブロック、九州ブロック）に身体障がい者、知的障がい者及び精神障がい者の団体競技について予選を実施。

3) 全国障害者スポーツ大会の内容充実

① 全国障害者スポーツ大会 大会委員会の開催

開催県からの大会報告による競技運営の課題等を受け、全国障害者スポーツ大会開催基準要綱の見直しや年齢区分や障害区分の検討・施行時期の調整及び各種課題について当協会専門委員会の技術委員会と連携を図りながら協議した。

② 競技別技術指導員の派遣

実施競技の円滑な運営を図るため、各競技の専門的な知識と技術を有し、競技に精通した指導員を派遣し（14競技23名）、本大会及びリハーサル大会における競技運営支援を行った。

③ 開催県等におけるパラスポーツの環境拡大

「大会ガイドブック」や「大会紹介映像」等の広報媒体を活用し、地域で開催されるパラスポーツの啓発事業等で配布、映写するなど広報活動を進めた。

④ 国民スポーツ大会における全国障害者スポーツ大会の理解啓発ブースの出展

スポーツに関心を持った多くの方々が集う国民スポーツ大会において、「障がい」や「パラスポーツ」を“知ってもらう”機会をつくることを目的とした体験ブースを出展し、国民スポーツ大会に引き続き開催される全国障害者スポーツ大会に向けた理解啓発を行った。

(2) 身体運動の重要性の理解・促進

関係団体等と連携して、障がいのあるすべての人々にとって身体運動が重要であることを啓発した。

JPSA のホームページにおいて、障がい者の身体運動の重要性を発信、また、パラスポーツ協会やパラスポーツセンターと連携し、自宅等で気軽にできる運動、体操の映像配信やパラスポーツの競技紹介などの映像を配信した。

また、登録パラスポーツセンターの施設紹介動画を制作および JPSA のホームページで紹介し、障がい者の健康増進や仲間づくり、社会参加などを促進するため、センターの利用促進を図ることができるよう施設の特徴や魅力について配信した。

(3) 学校でのパラスポーツ理解の環境づくり

学校においてパラスポーツを通した障がい者の理解促進を図る学習機会や特別支援学校・学級における体育授業の充実及びクラブ活動への参加促進がなされるような環境整備を支援するため、以下の施策を実施した。

→「1－2」公認パラスポーツ指導者の育成 参照

(4) スポーツ施設等のアクセシビリティの向上

障がい者が利用できるスポーツ施設や施設までのアクセスなどの情報提供をすることにより、障がい者が利用しやすい環境整備を支援する取り組みとして、日本スポーツ施設協会主催のスポーツ施設管理者のための障がい者対応講習会に協力し、障がい者が身近な地域において運動・スポーツに参加できる環境づくりを積極的に推進した。

(5) パラスポーツセンターの利用環境の充実

パラスポーツセンターと連携を深め、パラスポーツの振興体制を充実させるため、JPSA にパラスポーツセンター協議会を置き、連携事業を実施した。また、12 月に長野県において「全国障がい者スポーツセンター連絡協議会」を実施し、施設長会議や実務担当者会議において、各センターにおける課題の解決を図った。

1) 地域のパラスポーツセンターの在り方検討事業（JPSA 委託事業）

現在、JPSA のパラスポーツセンター協議会に登録しているスポーツセンターは 31 施設であるが、未設置の道県および政令指定都市を対象に、今後、地域のパラスポーツ振興の拠点となるパラスポーツセンターの整備に向けて、地域の実情に応じた在り方を関係者で検討する事業を行った。

No	受託団体名	事業名
1	札幌市	障がい者スポーツセンター基本構想策定事業

2) パラスポーツセンター機能強化事業（拠点整備）（JPSA 委託事業）

地域におけるパラスポーツの拠点の一つであるパラスポーツセンターのスポーツ用具を充実させ、障がいのある方が運動・スポーツを始めるきっかけとなる体制を整備した。

No.	受託団体名	事業名
1	ふれあいランド岩手	いわてスポーツネットワーク

2	下関市パラスポーツサポートセンター	初心者ボッチャ、ビームライフル・ピストル教室
3	京都市障害者スポーツセンター	スクエアボッチャ大会、ボッチャ体験会
4	群馬県立ふれあいスポーツプラザ	障害者スポーツ体験学習事業、Let's パラスポ体験 他
5	群馬県立ゆうあいピック記念温水プール	障害児市営教室、ボッチャ体験会・交流試合

3) パラスポーツセンター機能強化事業（人材配置）（JPSA 委託事業）

パラスポーツセンターは、地域全体にパラスポーツの普及等を行う幅広い機能や高い専門性を持つ施設であり、そこに人材を配置すること、また機能強化事業を実施することで、機能の整備や現状の機能の強化を行った。

No.	受託団体名	事業名
1	大阪府立障がい者交流促進センター	水泳事業等活性化事業
2	高知県立障害者スポーツセンター	パラスポーツセンター機能強化事業
3	京都市障害者スポーツセンター	人材配置によるパラスポーツ普及・振興事業

4) パラスポーツセンター職員スキルアップ研修会の開催

若手～中堅層の指導員を対象に、各施設が蓄積したノウハウの共有や指導上の情報交換等を行うことで、施設運営の中心となっている職員の資質の向上を図った。

研修会名	開催期日	開催場所	修了者数
パラスポーツセンター職員 スキルアップ研修会	令和7年 12月22日、23日	大阪市長居障がい者スポーツセンター	19名 (16施設)

(6) 総合型地域スポーツクラブの利用環境の充実

日本スポーツ協会の総合型地域スポーツクラブ全国協議会常任幹事会及び障がい者のスポーツ推進タイプ検討ワーキングチームに参画し、障がいの有無に関わらず、地域で気軽にスポーツに親しめる環境の充実に向けて、総合型地域スポーツクラブでの障がい者に対する支援体制の整備、拡充に向けた検討を行った。

「1-2」公認パラスポーツ指導者の育成

(1) スポーツ指導者数の拡大

1) 公認パラスポーツ指導者（以下「パラスポーツ指導者」という。）養成事業

各種指導者養成講習会の回数・内容の充実を図るとともに、指導者数の拡大のため、以下の講習会及び研修会を開催するほか、指導者養成講習会の実施団体の拡大などの検討を行った。

① 初級及び中級パラスポーツ指導員養成講習会の認定

都道府県・指定都市、都道府県・指定都市パラスポーツ協会（以下、県市等パラスポーツ協会）、その他関係機関が実施する初級及び中級パラスポーツ指導員養成講習会の認定を行った。（令和8年1月末日現在）

・初級パラスポーツ指導員養成講習会 80件（内委託事業10件）

・中級パラスポーツ指導員養成講習会 10件（内委託事業5件）

ア) 初級パラスポーツ指導員対象 6件

イ) 日本スポーツ協会公認指導者対象（都道府県主催） 0件

- ウ) 理学療法士対象(各県理学療法士会主催) 3件
 I) 作業療法士対象(日本作業療法士協会主催) 1件

② パラスポーツ指導員等各種養成講習会の開催

JPSA が主催して行うパラスポーツを支える指導者の養成講習会及び専門性の高い有資格者の育成研修会を開催した。

講習会名	開催期日	開催場所	修了者数
公認上級パラスポーツ指導員養成講習会	前期：令和7年7月12日～15日 後期：令和7年11月29日～12月2日	東京都多摩障害者スポーツセンター 東京都障害者総合スポーツセンター	50名
公認中級パラスポーツ指導員養成講習会(1)	前期：令和7年8月20日～24日 後期：令和7年11月12日～16日	群馬県立ふれあいスポーツプラザ	40名
公認中級パラスポーツ指導員養成講習会(2) (JSP0 公認指導者対象)	令和7年12月18日～21日	北海道立総合体育センター (北海きたえーる) 豊平公園温水プール	25名
公認中級パラスポーツ指導員養成講習会(3) (保健体育教員対象)	オンライン配信： 令和7年7月4日～25日 対面講習：令和7年8月7日、8日	富谷市成田公民館 宮城県障害者総合体育センター 宮城県障害者福祉センター	32名
公認パラスポーツコーチ養成講習会	前期：令和7年6月20日～22日 後期：令和7年12月12日～14日	NTC イースト	15名 (合格者)
公認パラスポーツトレーナー養成講習会	一次講習会・検定試験： 令和7年8月1日～3日 二次講習会： 令和7年11月7日～9日 二次検定試験： 令和8年1月23日～25日	NTC イースト 東京都障害者総合スポーツセンター	52名 (受講者)
公認パラスポーツ医養成講習会	オンライン配信： 令和8年1月31日～2月1日 対面講習：令和8年2月28日	対面： 大阪市長居障害者スポーツセンター	42名 (受講者)

③ 資質向上のための研修事業

JPSA が主催して行うパラスポーツ指導者のレベルアップにつながる研修会を実施した。

講習会名	開催期日	開催場所	修了者数
資格取得認定校研修会	令和7年9月4日	オンライン研修会	51校
全国障害者スポーツ大会 障害区分判定研修会	令和7年7月26日、27日	青森県庁	61名
第20回公認パラスポーツ指導員全国研修会	令和7年12月13日、14日	アストプラザ(三重県津市)	211名 (延べ)

(1) 公認パラスポーツ指導員養成講習会・研修会開催事業(JPSA 委託事業)

県市等パラスポーツ協会、パラスポーツ指導者協議会、パラスポーツセンターに対し、公認初級・中級パラスポーツ指導員養成講習会や指導者の資質向上の研修会の開催を助成し、地域振興に欠かせない人材養成に積極的に取り組むための事業を推進した。

No.	受 託 団 体 名	事業 区分	事 業 名
1	北海道パラスポーツ指導者協議会	中級②	PT のための公認中級パラスポーツ指導員養成講習会
2	岩手県障がい者スポーツ協会	中級②	令和7年度 PT と OT のための中級パラスポーツ指導員養成講習会
3	仙台市障害者スポーツ協会	中級①	仙台中級パラスポーツ指導員養成講習会
4	群馬県パラスポーツ協会	初級①	令和7年度 群馬県初級パラスポーツ指導員養成講習会
5	岐阜県障害者スポーツ協会	初級②	令和7年度初級パラスポーツ指導員養成講習会
6	大阪府障がい者スポーツ協会	中級①	令和7年度大阪府中級パラスポーツ指導員養成講習会
7	京都パラスポーツ指導者協議会	初級①	2025 年度京都府初級パラスポーツ指導員養成講習会
8	兵庫県障害者スポーツ協会	初級①	第47 回兵庫県パラスポーツ指導員養成講習会
9	神戸市社会福祉協議会 障害者スポーツ振興センター	初級②	令和7年度第45 回初級パラスポーツ指導員養成講習会
10	神戸市社会福祉協議会 障害者スポーツ振興センター	初級①	令和7年度第46 回初級パラスポーツ指導員養成講習会
11	和歌山県障害者スポーツ協会	初級①	令和7年度和歌山県初級パラスポーツ指導員養成講習会
12	島根県障害者スポーツ協会	初級①	令和7年度島根県パラスポーツ指導員養成研修会
13	山口県パラスポーツ指導者協議会	スキル アップ	令和7年度山口県パラスポーツ指導者協議会研修会 「フォローアップ研修会」
14	下関市パラスポーツサポートセンター	中級①	令和7年度公認中級パラスポーツ指導員養成講習会（下関）
15	佐賀県パラスポーツ協会	初級①	令和7年度公認初級パラスポーツ指導員養成研修会(佐賀)
16	大分県障がい者スポーツ協会	初級①	2025 年度大分県パラスポーツ指導者(初級指導者)養成講習会

2) 公認パラスポーツ指導者の資格認定

JPSA が認定した公認パラスポーツ指導員養成講習会の修了者や資格取得認定校（大学・短期大学及び専門学校）で所定の要件を満たした者などが資格申請した際の認定業務を行った。

また、パラスポーツ指導者マイページを開設し、指導者がパソコンやスマートフォンなどを使って、会員情報の確認・変更や資格更新の手続き、機関紙「NO Limit」の閲覧などがweb 上で気軽にアクセスできるようにした。

(2) 公認パラスポーツ指導者の育成

① パラスポーツ指導者協議会ブロック研修実行委員育成研修会

講 習 会 名	開 催 期 日	開 催 場 所	受講者 数
パラスポーツ指導者協議会ブロック研修実行委員育成研修会	令和8年1月17日、18日	ユートリー（青森県八戸市）	21 名

② 指導者資格取得者数（12月31日現在）

初級指導員	20,799名
中級指導員	4,522名
上級指導員	945名
スポーツ医	674名
スポーツコーチ	240名
スポーツトレーナー	283名

「1-3」 パラスポーツ振興に関する連携・協働

(1) 競技団体への支援

JPSA 登録競技団体やパラアスリート等の充実した活動の実現に向けた支援の在り方及び登録競技団体の登録規程の在り方を検討した。さらに、パラリンピック競技団体の自立に向けた活動を目指し、今後の支援の在り方を検討した。

(2) 日本スポーツ協会等との連携・協働

① 指導者養成については、上記「1-2」公認パラスポーツ指導者の育成に掲げた養成事業等を通じて指導者の育成を図るとともに、健常者を中心に指導者養成を行っている日本スポーツ協会との連携を図り、実施した。

② 総合型地域スポーツクラブについては、日本スポーツ協会の各種委員会に参画し、障がい者のスポーツ活動に向けた支援体制の整備、拡充に向けた検討を行った。

→「1-1」(6) 総合型地域スポーツクラブの利用環境の充実 参照

③ 日本スポーツ協会の「スポーツ指導者に関する公的な仕組みネクストステップ検討ワーキンググループ」に参画し、日本オリンピック委員会も含めた3者で「スポーツ指導者憲章」を公表した。

④ 都道府県におけるスポーツ関係団体の連携支援

→ミッション2「2-2」参照

⑤ 全国障害者スポーツ大会及び予選会などの各種競技大会を通じ、開催都道府県・市町村や地元の競技団体との連携・協働を密にし、パラスポーツの安全・安心に配慮した大会運営を行った。

⑥ 日本作業療法士協会との連携

障がい者の日常生活支援に大きな役割と専門性を有する作業療法士（OT）を養成・育成している日本作業療法士協会と連携・協力し、障がい者がより豊かで健康な生活を営むための支援拡大として、日常的な運動・レクリエーションおよびスポーツ分野からも関わることができる作業療法士を対象とした中級パラスポーツ指導員養成講習会を実施した。

⑦ 日本スポーツ施設協会との連携

→「1-1」(4) スポーツ施設等のアクセシビリティの向上 参照

「1-4」 パラスポーツに関する調査・研究

(1) 大学等との協働

大学や研究機関等と協働し、パラスポーツの普及・強化・啓発等に寄与する調査・研究を行った。

(2) 重度障がい者、高齢障がい者等のスポーツ参加に向けた調査・研究

令和6年度に実施した「全国障害者スポーツ大会 スラローム種目における電動車いすの速度と競技結果に関する検証調査」の結果を踏まえ、技術委員会で分析・検討を行った。全国障害者スポーツ大会での規則改正等に向けては、更にデータの蓄積を行い、検討を進めることとした。

(3) 公認パラスポーツ指導員実態調査

5年に一度の調査のため、本年度は実施しなかった。次回は令和9年度実施予定。

ミッション2

【全国における行政、学校、関係諸団体等との強い連携・協働】

スポーツ施策の一元的推進体制の下、全国においてパラスポーツ振興の取り組みが継続的に推進できるよう、行政（スポーツと福祉）、学校、スポーツ団体、医療機関及び企業・関係諸団体等との強い連携・協働体制づくりを進めた。

「2-1」県市等におけるパラスポーツ振興への支援

(1) 県市等でのスポーツ教室・大会・イベント開催の促進

県市等パラスポーツ協会、パラスポーツ指導者協議会、行政機関が協働し、パラスポーツ競技団体及び一般スポーツ競技団体など関係者と連携し、障がい者が気軽に参加できるスポーツ教室・大会・イベントの継続的な開催を促し、スポーツの日常化を進めた。

1) 地域におけるパラスポーツの振興事業等の内容充実（JPSA委託事業）

障がい者が、身近な地域で自主的・積極的・継続的にスポーツに参加できる環境づくりを目指し、県市等パラスポーツ協会、パラスポーツ指導者協議会、パラスポーツ競技団体、パラスポーツセンターと連携して地域におけるパラスポーツ振興の課題解決のきっかけとなるよう次の事業を実施した。

事業は、公認パラスポーツ指導者やスポーツ、福祉、医療等の関係団体、学校等の教育機関との連携や協働を図りながら、障がい者向けのスポーツ教室やイベント等を実施する団体に対し助成した。（31団体で実施）

No	受託団体名	事業名
1	岩手県障がい者スポーツ協会	パラスポーツ推進のためのロジックモデルを活かした地域拠点整備事業
2	宮城県障害者スポーツ協会	宮城県パラスポーツ振興事業
3	京都障害者スポーツ振興会	京都府における障害者スポーツの振興事業
4	兵庫県障害者スポーツ協会	繋げるパラスポーツ振興事業2025
5	和歌山県障害者スポーツ協会	紀の国パラスポーツ アクティベーションプロジェクト
6	徳島県パラスポーツ協会	令和7年度 とくしまパラスポーツチーム支援プロジェクト事業
7	大分県障がい者スポーツ協会	持続的なスポーツ環境構築によるパラスポーツ普及促進
8	熊本県障害者スポーツ・文化協会	熊本県下地域ふれあいパラスポーツ体験会 (障がいのある人もない人も一緒にパラスポーツを楽しもう)

9	仙台市障害者スポーツ協会	地域と育む障害者スポーツ推進事業
10	京都市障害者スポーツ協会	パラスポーツ活動拠点拡大プロジェクト
11	宮城県障害者スポーツ指導者協議会	障がい者のスポーツ参加推進事業
12	日本ブラインドサッカー協会	ブラインドサッカー地域リーグ2025（北日本・中日本・西日本）
13	日本ボッチャ協会	地域スポーツ振興のための指導者等育成・都道府県協会（PF）支援事業 （B チャレンジ2025 東日本・西日本・全国代表者会議・PF 支援会議）
14	日本パラカヌー連盟	地域におけるパラカヌー普及振興事業
15	全日本柔道連盟	ID 柔道（知的障がい者柔道）紹介事業
16	日本パラ・パワーリフティング連盟	筋肉でつながろう！パラパワーリフティング研修会&体験会
17	日本パラ水泳連盟	日本パラ水泳通信総合記録会地域インクルーシブ型の開催事業
18	日本車いすバスケットボール連盟	普及発掘支援事業
19	日本障害者スキー連盟	地域におけるパラスキー・パラスノーボード振興事業
20	日本車いすカーリング協会	車いすカーリングの体験会および、活動拠点の環境整備
21	全日本グランドソフトボール連盟	全日本グランドソフトボール連盟 審判養成研修事業
22	日本知的障がい者サッカー連盟	JFFID 地域活性化プロジェクト ～だれもがいつでもどこでもサッカーができる環境整備～
23	日本アンブティサッカー協会	アンブティサッカー普及プロジェクト
24	日本セーリング連盟	パラセーリング普及推進事業
25	日本ソーシャルバスケットボール協会	精神障がい者バスケットボール推進事業 ソーシャルバスケットボール・キャラバン 2025-2026
26	日本ソーシャルフットボール協会	ソーシャルフットボール全国キャラバン
27	日本卓球バレー連盟	卓球バレー競技を通じた地域におけるパラスポーツ活動の定着推進事業
28	日本パラダンススポーツ協会	パラダンススポーツ体験会
29	日本車椅子ソフトボール協会	地域における車椅子ソフトボール振興事業
30	日本車椅子ハンドボール連盟	4ブロック4市における車いすハンドボール体験会、支援者（指導者・審判）講習会
31	全日本視覚障害者ボウリング協会	視覚障害者ボウリング地域指導者・支援者養成講習会事業

(2) 県市等のパラスポーツ協会の組織運営の支援

1) 県市等パラスポーツ協会実態調査

5年に一度の調査のため、本年度は実施しなかった。

2) パラスポーツコーディネーター配置事業（モデル事業）

県市等のパラスポーツ協会(2協会)に、専任の「パラスポーツコーディネーター」を配置し、既存事業を遂行するだけでなく、協会およびコーディネーターが主体的に企画・運営し、行政機関をはじめとする関係団体等と協力・連携しながら、障がい者が気軽に運動・スポーツに取り組むための環境を整備することを支援した。

No.	受託団体名	事業名
1	宮城県障害者スポーツ協会	パラスポーツコーディネーター配置事業
2	広島県パラスポーツ協会	パラスポーツコーディネーター配置事業

(3) 県市等におけるパラスポーツ施策一元的推進体制への支援

ミッション2「2-2」(1) 参照

「2-2」 県市等におけるスポーツ関係団体間の連携の支援

(1) 県市等におけるスポーツ関係団体間の連携の支援

ブロック内の県市等が進めているパラスポーツ振興の現状や課題、その課題解決に向けた方策や取り組みを共有するとともに、具体的な支援・協力体制の構築につなげるため、ブロック内の行政担当者、パラスポーツ協会職員、パラスポーツ指導者およびパラスポーツセンター職員が情報交換を進め、相互に協力しあう関係づくりを促進させるとともに、ブロック及び各県のパラスポーツ振興を推進した。

No	ブロック	日程	開催地	会 場
1	近 畿	令和7年7月1日	京都市	京都テルサ
2	九 州	令和7年7月15日	福岡県	クローバープラザ
3	中国・四国	令和7年8月4日	岡山県	岡山県総合福祉・ボランティア・NPO会館
4	北信越	令和7年8月18日	新潟県	高田ターミナルホテル
5	中部東海	令和7年8月25日	名古屋市	愛知県産業労働センター ウィンクあいち
6	東 北	令和7年9月2日	山形県	霞城セントラル
7	北海道	令和7年9月23日	札幌市	北海道自治労会館
8	関 東	令和7年11月10日	横浜市	かながわ県民センター

ミッション3【競技力向上とパラアスリートの価値・魅力の向上】

世界で活躍できるパラアスリートの発掘・育成・強化、全国的・国際的な各種パラスポーツ競技大会の定期的開催などにより、競技力の向上とパラスポーツの価値・魅力の向上の実現に向けて事業を行った。

【「3-1」競技力の向上】

(1)世界を目指すパラアスリートの活躍支援

JPC 加盟競技団体が行う基盤的強化活動を支援するため、医・科学・情報支援、タレント発掘支援、アスリート育成パスウェイの構築支援等を行った。また、各種国際総合競技大会に日本代表選手団を派遣するとともに、日本代表選手が最高のパフォーマンスを発揮できるようにするための支援を行った。

①基盤的強化活動

1)競技団体が行う強化活動に対する助成

JPC 加盟競技団体が実施する選手強化活動事業に対して、各競技のパラリンピック等の国際大会への競技実績等(基礎配分)と重点強化指定競技団体(重点配分)を勘案し、加盟競技団体への助成を行った。

ア. 選手強化活動事業

競技団体の強化指定選手を対象とした国内外で実施する強化合宿及び海外へのチーム派遣、海外チームの招聘等に加え、計画的かつ継続的な選手強化等の事業に際して、AR や VR 等のデジタル技術を用いた選手強化活動やアスリートが現在実施している競技以外のスポーツ・トレーニングを実施する「クロストレーニング」を積極活用するパラリンピック競技団体を支援するなどの選手強化活動を行った。

イ. コーチ力強化事業

海外の優秀なコーチの招聘または海外へのコーチ派遣を行った。

ウ. 競技団体選手強化体制整備事業

競技団体における国際競技力向上のための強化活動に係る強化委員会等の会議の開催や競技大会の視察及びその他強化体制の整備を図るための事業

a)アスリート委員会

JPC 戦略計画に基づき、JPC 及び JPC 加盟団体会議等スポーツ関連団体の組織運営にアスリートの声を反映するとともに、主体的にパラリンピックムーブメントを推進すべく、各種研修会等を実施した。

第1回 令和7年5月15日(木) 対面/オンライン

第2回 令和7年7月29日(火) オンライン

第3回 令和7年9月25日(木) オンライン

臨時 令和7年12月22日(月) 対面/オンライン

ア)IPC アスリートフォーラム参加 令和7年6月24~26日@ドイツ

参加者：網本麻里

イ)JPC アスリートフォーラム2025開催 令和7年8月24日(日)

参加者：三阪羊行、網本麻里、岩淵幸洋、久保大樹

ウ)JPC ユースアスリート研修会参加 令和7年10月4日(土)・5日(日)

参加者：三阪羊行、岩淵幸洋、浦田理恵、久保大樹、鈴木孝幸

エ)Tリーグ能登半島復興支援イベント 令和7年10月11日(土)

参加者：網本麻里

オ)ドバイ2025アジアユースパラ競技大会帯同 令和7年12月7日(日)~14日(日)

参加者：岩淵幸洋、久保大樹

カ)NF アスリート連絡担当者会議 令和7年12月22日(月)

参加者：JPC アスリート委員

キ)資質向上研修会 令和7年12月22日(月)

参加者: JPC アスリート委員、NF アスリート連絡担当者

講師: 星奈津美氏(パラ水泳コーチ)

b)女性スポーツ委員会

女性アスリートの活躍を支援するために JPC 女性スポーツ委員会にて、相談窓口の設置及び研修会等を開催した。

第1回 令和7年6月19日(木) オンライン

第2回 令和7年8月21日(木) オンライン

第3回 令和8年2月2日(月) オンライン

ア)ジャパンパラ競技大会における相談窓口設置

《陸上競技》

日 時: 令和7年6月7日(土)~6月8日(日)

参加者: 桜間裕子、上出杏里

相談人数: 2日間で延べ7名(選手2名、スタッフ2名、関係者3名)

《水泳》

日 時: 令和7年9月13日(土)~15日(月・祝)

参加者: 桜間裕子、上出杏里委員、吉野昌恵、上垣匠

相談人数: 2日間で延べ3名(選手1名、スタッフ1名、関係者1名)

イ)キッズルームの設置

大会等に参加する選手・スタッフを対象とする託児業務(事前申込制)

《ジャパンパラ陸上競技大会》

日 時: 令和7年6月6日(金)~6月8日(日) 利用者数:3日間で延べ 10 名

《ジャパンパラ車いすラグビー競技大会

日 時: 令和7年7月24日(木)~27日(日) 利用者数:4日間で延べ3名

《ジャパンパラ水泳競技大会》

日 時: 令和7年9月13日(土)~15日(月・祝) 利用者数:3日間で延べ3名

《ミラノ・コルティナ 2026 パラリンピック競技大会日本選手団結団式》

日 時: 令和8年2月12日(木) 利用者数:1日間で延べ1名

ウ)セミナー開催(HPMT とのコラボ)

日 時: 令和7年10月28日(火) 実施体制: オンライン

エ)女性アスリートへの身体的課題解決のためのオンライン個別相談

日 時: 令和7年5月19日(月)~令和8年2月27日(金)までの間の希望日

対 象: 令和7年度夏季・冬季パラリンピック実施競技団体、デフリンピック実施競技団体に所属する女性強化指定選手

オ)臨床スポーツ医学学会での活動報告

日 時: 令和7年11月2日(日)、3日(月・祝)

場 所: 幕張メッセ

参加者: 能瀬さやか

演 題: 妊娠を希望する女性アスリートの懸念と競技団体規程に関する調査

c)クラス分け委員会

クラス分けに関する啓発・教育を推進し、競技団体が行うクラス分けの活動に対する助言・協力、IPC クラス分け規程並びに国際基準の啓発・教育の推進を行った。

第1回 令和7年6月23日(月) 対面/オンライン

第2回 令和7年8月7日(木) 対面/オンライン

第3回 令和7年11月7日(金) 対面/オンライン

クラス分けNF 担当者連絡会議 令和8年1月30日(金) オンライン

d)選手強化対策委員会の開催

ア)JPC 運営委員会 ※委員会特記内容

第1回：令和7年6月6日(金)

JPC 加盟競技団体要項の改正

第2回：令和7年7月11日(金)

JPC 国際総合競技大会派遣規程の改正/ドバイ 2025 アジアユースパラ競技大会 日本代表選手団役員/ミラノ・コルティナ 2026 パラリンピック冬季競技大会 日本代表選手団役員

※新任運営委員での実施

第3回：令和7年9月29日(月)

JPC 加盟申請団体の承認/ドバイ 2025 アジアユースパラ競技大会 日本代表選手団役員/愛知・名古屋 2026 アジアパラ競技大会日本代表選手団編成方針及び選手・

スタッフ選考基準、日本代表選手団行動規範の改正、日本代表選手団 団長賞の制定

第4回：令和7年11月6日(木)

JPC 強化指定選手制度の改正/競技大会 日本代表選手団決定

第5回：令和8年1月16日(金)

JPC 加盟申請団体の承認/ミラノ・コルティナ 2026 パラリンピック冬季競技大会日本代表選手団決定

臨時運営委員会：令和7年4月18日(金) 書面審査

JPC 強化指定選手制度の改正

イ)JPC 強化本部

JPC 戦略計画に基づく JPC、JPC 加盟競技団体並びに同競技団体に所属するアスリート等の発掘・育成・強化のための活動を支援することを目的に、JPC が行う事業(会議、研修会、日本代表選手団、競技力審査等)に対する助言、協力を行った。

第1回：令和7年5月14日(水)

新委員挨拶、R7 年度強化本部体制説明

第2回：令和7年7月30日(水)

R7 年度活動方針、日本代表選手団行動規範の見直し、アジアパラ選手団編成方針・選考基準の検討、ミラノ・コルティナ大会アンケート項目の検討

第3回：令和7年9月8日(月)

日本代表選手団行動規範の見直し、アジアパラ選手団編成方針・選考基準の策定、ミラノ・コルティナ大会派遣前ヒアリング

第4回：令和7年10月30日(木)

ドバイアジアユースパラ競技大会日本代表選手団、ミラノ・コルティナ大会派遣前ヒアリング、夏季協働コンサル

第5回：令和8年1月15日(木)

ミラノ・コルティナ大会日本選手団、および大会視察、夏季協働コンサル、ドバイアジアユースパラ大会報告

第6回：令和8年3月23日(月)

ミラノ・コルティナ大会視察、R8 年度活動計画

e)強化活動実施状況の視察

ア)ジャパンライジングスタープロジェクト【関東ブロック・東京会場】視察

日 程：令和7年8月31日(日)

会 場：日本大学文理学部キャンパス(東京都世田谷区)

視察者：強化本部員1名

内 容：参加者の測定状況の視察、参加NF スタッフ等との情報交換

イ) ジャパンパラ水泳競技大会視察

日 程：令和7年9月13日(土)

会 場：日本ガイシアリーナ(愛知県名古屋市)

視察者：強化本部員1名

内 容：競技視察、NF 強化担当者との情報科学サポートに関するヒアリング

エ. ナショナルコーチ・スタッフ等設置事業

a) JPC ナショナルコーチ・スタッフ等設置事業

パラリンピック競技大会をはじめとする国際競技大会で活躍が期待できる競技者を有する JPC 加盟競技団体及び当協会に、中長期強化戦略プランの作成を担うハイパフォーマンスディレクター (HPD)、ハイパフォーマンスアシスタントディレクター、ナショナルヘッドコーチ、ナショナルチームコーチ、ナショナルスタッフを設置し、競技団体の基盤強化、選手の育成・強化を効果的に推進した。また、JPC にはハイパフォーマンスマネージャー (HPM) とサービスマネージャー (SM) を設置し、各加盟競技団体の HPD 等と情報共有・相互連携することにより強化事業の効果的推進を図った。

※令和7年度：207 名を委嘱(2026 年1月1日現在)

ア) JPC ハイパフォーマンスマネジメントチーム (HPMT) による活動

JPC に設置する HPM 及び SM を HPMT として、各競技団体に設置された HPD と年間を通じたコミュニケーションを行い、中長期的な強化戦略プランの計画・立案・策定を支援するとともに、強化戦略プランに基づく日常的な強化活動における課題解決に向けた助言、知見の提供、人材の紹介等を行った。また、HPD の育成のためのシステム構築・研修を行った。

イ) 各競技団体の HPD やコーチ・スタッフを対象としたセミナー等の実施

1. HPM セミナー 令和7年8月26日(火)

2. 強化スタッフセミナー

令和7年7月18日(金) 令和7年12月26日(金)

3. HPMT 主催のコミュニケーション勉強会

令和7年7月1日(火) パスウェイ構築・活用の現状

令和7年10月14日(火) コンディション管理とトレーニング管理

令和7年10月28日(火) 女性アスリート支援の現状

令和8年1月14日(水) 映像・情報技術の活用

② JPC クラス分け情報・研究拠点(Classification Hub: CH)の設置

クラス分けに係る「教育・研修」「国際情報の収集・共有」「調査・研究」「アスリート情報の管理」「ネットワーク構築」などの業務を一元的に担うことで、クラス分けの機能充実にに向けた取り組みを進める目的で設置。専門人材として JPC クラス分けマネージャー、コーディネーター(視覚障がい・身体障がい・知的障がい各担当)を置き、以下の活動を行った。

a) メールマガジンの配信開始(毎月配信)

b) CH 研修会の実施

第1回：クラス分け従事者に求められる行動規範について 令和7年5月16日(金)

第2回：VI クラス分けに関する情報共有 令和7年9月16日(火)

第3回：国内競技団体の事例共有 令和7年11月26日(水)

c) 国内・国際クラス分け実施に向けての協力・支援

d) 国内競技団体におけるクラス分け体制等のヒアリング・体制調査を実施

③ タレント発掘事業「ジャパン・ライジング・スタープロジェクト(J-STAR プロジェクト)」

将来のパラリンピック競技大会等で活躍する有望なアスリートを発掘し、競技団体の育成・強化コースへ導くことを目的として、全国各地でタレント発掘プログラム(測定会による参加者の選考)と発掘された参加者を対象とした検証プログラム(トレーニング合宿での検証)を実施した。JSC、JOC、JSP0 やパラリンピック競技団体、地域の関係団体等と連携し、各種プログラムを展開した。

a)発掘プログラムの実施

	開催地	日程	会場	申込	参加
1	神戸市	6/28(土)	神戸市立市民福祉スポーツセンター	37	35
2	大分県	7/5(土)	大分県身体障害者福祉センター(あすぴあおおいた)	34	25
3	山口県	7/20(日)	J:COM アリーナ下関(下関市総合体育館)	12	10
4	札幌市	8/2(土)	北ガスアリーナ札幌46	17	14
5	福島県	8/10(土)	あづま総合運動公園(開催中止)	2	
5	東京都	8/31(日)	日本大学文理学部キャンパス	56	50
7	名古屋市	9/13(土)	名古屋市障害者スポーツセンター	32	30
8	新潟県	9/15(月・祝)	新潟県障害者交流センター(新潟ふれ愛プラザ)	12	7
9	愛媛県	9/27(土)	愛媛県総合運動公園 体育館	17	12
計				219	183

【参考：令和6年度エントリー(申し込み)数231名】

b)検証プログラムの実施

検証プログラムは23競技団体(強化単位)に委託し、71名が検証のための合宿・トレーニングに参加した。

c)J-STAR プロジェクト修了生の活躍

ドバイ 2025 アジアユースパラ競技大会にJ-STAR 修了者から6競技21名(陸上競技、ボッチャ、パワーリフティング、水泳、テコンドー、卓球)が出場した。

(2)国際総合競技大会への日本代表選手団の派遣、その他、アスリート等のための研修会の開催

①国際総合競技大会への日本代表選手団の派遣

a)第25回夏季デフリンピック競技大会 東京2025 (東京2025 デフリンピック)

会 期：令和7年11月15日(土)～11月26日(水)(12日間)

開 催 地：東京都、静岡県、福島県

主 催：国際ろう者スポーツ委員会(ICSD)、一般財団法人全日本ろうあ連盟デフリンピック運営委員会、東京都、東京都スポーツ文化事業団デフリンピック運営本部

参 加 国：77カ国・地域+ろう者個人中立選手+デフリンピックチーム(前回大会：73カ国)

参加人数：2,943人(前回大会：2,412人/ICSD発表)

実施競技：21競技：陸上競技、バドミントン、バスケットボール、ビーチバレーボール、ボウリング、自転車(ロード・マウンテンバイク)、サッカー、ゴルフ、ハンドボール、柔道、空手、オリエンテーリング、射撃、水泳、卓球、テニス、テコンドー、バレーボール、レスリング(フリースタイル、グレコローマン)

日本代表選手団：395名(選手268名、役員127名)

団 長：太田陽介(一般財団法人全日本ろうあ連盟スポーツ委員会委員長)

副団長：栗野達人(一般財団法人全日本ろうあ連盟スポーツ委員会委員)

旗 手：松元卓巳(サッカー)、小倉涼(空手)

成 績：メダル獲得数：金16 銀12 銅23 計51個

特記事項：・日本における初めての開催であり、日本選手は全21競技に出場した

・過去最高のメダル獲得数

(過去最多は前回ブラジル大会の金12、銀8、銅10の計30個)

b)ドバイ 2025 アジアユースパラ競技大会

会 期：令和7年12月7日(日)～12月14日(日)(8日間)

開 催 地：UAE・ドバイ

主 催：アジアパラリンピック委員会(APC)、他

参 加 国：35 か国・地域

参加人数：選手 1,500 人(過去最多)

実施競技：11 競技：アーチェリー、陸上競技、バドミントン、ボッチャ、ゴールボール、パワーリフティング、水泳、卓球、テコンドー、車いすバスケットボール、アームレスリング ※日本は下線の7競技に出場

日本代表選手団：96 名(選手 41 名、競技パートナー3 名、役員等 52 名)

団 長：浦田理恵(日本パラリンピック委員会アスリート委員会委員)

副団長：仲前信治(日本パラリンピック委員会事務局次長)

旗 手：谷口拓磨(車いすバスケットボール)

成 績：メダル獲得数：金 46 銀 27 銅 14 計 87 個(前回金 33 銀 12 銅 14=59 個)

金メダル数 第 3 位、総メダル数 第 6 位

特記事項：J-STAR プロジェクト修了選手が車いすバスケットボールを除く 6 競技に計 21 名参加大会運営上の不備により、メダル授与セレモニーが実施できない競技・種目や選手団の出発までにメダルが授与出来ない事態が生じた(日本は陸上競技、水泳で計 61 個のメダル金 34、銀 17、銅 10 が未受領、組織委員会からの郵送を待っている)。

c)ミラノ・コルティナ 2026 パラリンピック冬季競技大会

会 期：令和 8 年 3 月 6 日(金)～3 月 15 日(日)(10 日間)

開 催 地：イタリア共和国・ミラノ、コルティナ、ヴァル・ディ・フィエンメ

運営主体：国際パラリンピック委員会(IPC)

ミラノ・コルティナ 2026 オリンピック・パラリンピック組織委員会

参 加 国：前回 46 か国・地域

参加人数：665 人(前回 588 人)

実施競技：6 競技：アルペンスキー、スノーボード、車いすカーリング、バイアスロン、クロスカントリースキー、アイスホッケー ※日本は全競技に出場

日本代表選手団：101 名(選手 44 名、競技パートナー2 名、役員 55 名)

団 長：大日方邦子(公益財団法人日本パラスポーツ協会理事)

副団長：荒井秀樹(日本パラリンピック委員会運営委員会委員)

與品美由紀(日本パラリンピック委員会事務局国際部長)

旗 手：小川亜希(車いすカーリング)、小須田潤太(スノーボード)

成 績：メダル獲得数：銀 3 銅 1 計 4 個(前回金 4 銀 1 銅 2 計 7 個)

金メダル数 第 19 位、総メダル数 第 16 位

特記事項：選手と関係者の繋がりを深めるためのスローガン「挑め、心をひとつに。」を策定。選手最年少・河原優星選手(16 歳/パラアイスホッケー)、最年長・中島洋治選手(61 歳/カーリング)。

アルペンスキー村岡桃佳選手がパラリンピック冬季競技大会で日本人最多のメダル(通算 11 個)獲得(これまでは大日方邦子選手の 10 個)。

パラリンピック冬季競技大会での日本代表選手として通算 100 個目のメダルを、スノーボード小栗大地選手が獲得(バンクドスラローム・銀メダル)。

日本代表選手団に初めて W0(ウェルフェアオフィサー)を配置、代表決定時から大会期間中まで選手の心理サポートを実施した。

コルティナ選手村近くの語学学校を JPC 村外拠点とし、記者会見場の設置や JSC、味の素の協力を頂き選手サポートを実施した。

選手団のスローガン「挑め、心をひとつに。」を様々な形で体現したパラスノーボードチームに団長賞を贈った。

②指導者等の人材育成研修会

a)アスリート等のための研修会

ア)JPC ユースアスリート研修事業

パラリンピック実施競技団体を対象に、アジアユースパラ競技大会の出場およびユース対象の世界大会等への出場を望める選手を対象に、本事業を通し、チームジャパンとしての団結力を養い、アスリートとして必要なスキルを身につけながら、将来的にパラリンピック競技大会等において活躍することができるアスリートの育成を目的として実施した。

対 象：(1)ドバイ 2025 アジアユースパラ競技大会に出場する選手

(2)アジアユースパラや競技別の年代別大会に出場できる年齢の選手

(3)その他パラ競技団体から推薦があり JPC 事務局が認めた選手

※(1)に該当しない選手・競技団体は12歳～24歳の選手とする。

日 程：令和7年10月4(土)・5(日) 参加者20名 会場 NTC-E

内 容：アイスブレイク・チームビルディング、メンタルコーピングスキル、スポーツ栄養、パラリンピアンとの対話等③競技団体の経営力を強化するための研修会

③競技団体の経営力を強化するための研修会

「JPC 加盟団体代表者会議」の実施：令和7年9月3日(水)

④セカンドキャリアのための研修会

a)JPC アスリートキャリア研修会

「自己分析」をテーマに、パラスポーツを通して自身がこれまで得た経験や知識について振り返り、その中で今後のキャリアにおいても活かせるものを客観的に整理できるようにすることを目的とする。

日 時：令和7年8月24日(水) JPC アスリートフォーラム 2025 内 対面/オンライン

実施内容：パネルディスカッション

講 師：パネリスト 網本麻里、岩渕幸洋、久保大樹(JPC アスリート委員)

ファシリテーター 三阪洋行(JPC アスリート委員)

【「3-2」強化環境の整備】

(1)ハイパフォーマンススポーツセンター(HPSC)の利用等に関する運営会議に参加するとともに、パラリンピック実施競技団体が計画的にナショナルトレーニングセンター(NTC)を利用できるように利用調整を行った。

(2)日本オリンピック委員会(JOC)等との連携強化

①オリンピック・パラリンピック日本代表選手団派遣準備及び、運営に関する情報共有や連携等を行った。

②<JOCJPC 共同事業>アスリートへの誹謗中傷等対策事業

1 法務サポート(相談窓口の設置)

2 教育・研修(選手やスタッフ含め、競技団体に向けたインテグリティ向上のための研修実施)

3 広報啓発(広報ツールを制作し、加盟団体とともに発信し周知していく)

4 人材育成(セーフガーディングオフィサーの育成)

5 監視機能(モニタリング等の実施)

・失敗や容姿等を誹謗中傷するのではなく「努力を讃える」「背中を押す」文化の醸成を目指す。

・選手たちが安心安全に競技に打ち込めるよう、令和7年度は、世界陸上、デフリンピック、ミラノ・コルティナ冬季オリンピック、パラリンピックの4大会でSNSモニタリングを実施。

(3)日本での主要国際大会開催への協力

日本で開催する、愛知・名古屋2026アジアパラ競技大会(以下、愛知・名古屋アジアパラ)及び、第25回夏季デフリンピック競技大会東京2025(以下、東京デフリンピック)の開催にあたり、各大会組織委員会が行う事業に参加・協力を行った。

【「3-3」競技団体・パラアスリートへのスポーツインテグリティの向上】

(1) ガバナンスの強化とコンプライアンスの徹底並びにインテグリティ(高潔性)の向上

スポーツ団体の適正なガバナンス(コンプライアンス及びインテグリティを含む)確保のための仕組みとして、スポーツ庁、JSC、JSP0、JOC 及び JPSA が緊密な連携の下で NF のガバナンス確保に取り組む体制を構築するため、各団体等の長からなる「スポーツ政策の推進に関する円卓会議」を設置。JSP0、JOC、JPSA は、各加盟の NF を対象に、スポーツ庁が令和元年6月に策定した「スポーツ団体ガバナンスコード」に則り適合性審査を毎年実施(4年で全てのNFが受審)し、その審査結果とともに不祥事案は円卓会議で報告される。

①令和7年度の審査の状況

a)対象団体：JPC 加盟9団体

b)審査結果：令和8年3月下旬に公表

②研修会の計画・実施

a)JPC 加盟団体向けインテグリティ研修会

パラリンピックや世界選手権等、日本代表選手として世界の舞台で戦う強化指定選手の資質・インテグリティ(誠実さ、真摯さ、高潔さ)を高め、正しい倫理観のもと自らスポーツの価値を高める知識と手段を知り、報道機関や SNS を通じ自身の姿や成果を適切に社会に発信すること等を学ぶ。

対象者：パラ実施競技団体強化指定選手、育成／次世代強化指定選手、

チームスタッフ(コーチ、事務局スタッフなど)

デフリンピック実施競技団体指定強化選手/スタッフ

講師：小塩康祐氏(弁護士)

ア)第1回『パリ大会前後に発生した事例をもとにその予防と対応

～未成年者飲酒・喫煙、SNS 関連、オンライン賭博など～』

選手対象 令和7年6月24日(火)・8月4日(月) オリパラ合同で実施

イ)第2回『SNS 上の誹謗中傷問題とその対策 ～傾向、対応策、相談窓口について等～』

指導者・スタッフ対象 令和7年6月27日(金)・8月7日(木) オリパラ合同で実施

b)JPSA 役職員向け研修会

上記研修をオンデマンドで受講

③その他

ガバナンスコード適合性審査は今年度2巡目の2年目。今年度対象団体について、1巡目で達成出来なかった項目が改善されている団体もあれば、未改善項目が多々あるケースも見受けられ、JPC 法務相談窓口も活用しながら規程類の整備や相談窓口設置、コンプライアンス委員会の設置など、改善に向けたサポートを行った。

(2) アンチ・ドーピング活動の徹底

クリーンで公正なスポーツを守るため、日本アンチ・ドーピング機構や日本スポーツフェアネス推進機構との連携を図り、競技団体やアスリート及び関係者に対するアンチ・ドーピング活動に関する教育や研修を行うとともに、ドーピング検査活動に関する協力を行った。

アンチ・ドーピング体制の整備のため、これまで JPSA/JPC が JPC 加盟競技団体の代表として JADA^{*1}へ加盟していたが、各 JPC 加盟競技団体の JADA への個別加盟を進めてきたが、夏冬パラリンピック競技団体においてはほぼ全てが JADA 個別加盟を完了するに至っている。

また、2021Code 及び教育に関する国際基準等に則した国内の教育を実施するため、JADA 承認エデュケーターを配置し、ドバイ 2025 アジアユース競技大会やミラノ・コルティナパラリンピック冬季競技大会の派遣前教育、滋賀県で開催された全国障害者スポーツ大会でのアウトリーチなどを行った。

*¹JADA・・・日本アンチ・ドーピング機構

- (1)全スポーツ賞大会でアウトリーチブース出展：令和7年10月24日(金)
- (2)JADA テーマ別教育担当者情報交換セッション：令和8年1月29日(木)、2月26日(木)
- (3)JPSA アンチ・ドーピング部会：令和7年5月21日(水)、12月3日(水)
- (4)2025年度 アンチ・ドーピングカンファレンス(於オリンピックスクエア)
：令和7年12月19日(金)
- (5)アンチ・ドーピングNF連絡会議：令和8年2月4日(水)
- (6)JADA主催オープンセミナー：令和7年10月22日(水)(JADA非加盟団体対象)
令和7年11月4日(火)(JADA加盟団体対象)

以 上

ミッション4【パラスポーツを通じた国際協力の推進】

パラスポーツに関わる国際的情報を収集するとともに、我が国の取り組みについて情報発信するため、国際機関との連携・交流を図った。また、国際スポーツ界の意思決定に積極的に参画するため、国際機関への日本人役員のポストを維持・拡大を目指すとともに、NFと連携し、国際競技団体（IF）で活躍できる人材の輩出などにより国際協力を推進した。

「4」国際協力

(1)国際役員としての活動を通じた世界のパラスポーツ発展への協力

- 本年度実績 -

1) 国際組織との連携

- ① 令和7年6月 日中韓スポーツ大臣会合に伴う3か国によるMoU締結
内容：中国にて署名式実施
- ② 令和7年8月 APC 総会およびカンファレンス
内容：事業報告・計画の共有およびAPC ストラテジーについてのカンファレンス
- ③ 令和7年8月 Virtus Asia 総会
内容：事業報告・計画の共有
- ④ 令和7年8月 ASEAN 招聘事業（JSC）への支援
内容：ASEAN 各国のパラスポーツ指導者養成プログラム作成支援
- ⑤ 令和7年9月 IPC 総会およびカンファレンス
内容：事業報告・計画の共有およびIPC 理事選挙、NPC ロシア・NPC ベラルーシの会員資格に関わる決議、IPC 理事選挙（パーソンズ氏が、会長再選。また、11月に延期となった一般理事選挙の際にマセソン氏が再選した。）
- ⑥ 令和7年10月 World Abilitysport 総会
内容：事業報告・計画の共有
- ⑦ 令和7年10月 IBSA 総会
内容：事業報告・計画の共有、IBSA ストラテジーについてのカンファレンス
- ⑧ 令和7年11月 Virtus 総会
内容：事業報告・計画の共有および理事選挙
- ⑨ 令和8年1月 アセアンゲームズへの支援（JSCと協力）
内容：クラス分けセミナーへの参画

2)NPC 他との連携

香港パラリンピック委員会、フランスパラリンピック委員会、韓国パラリンピック委員会、中国パラリンピック委員会、アメリカオリンピック・パラリンピック委員会の5NPCの来訪を受け、組織体制や選手強化またクラス分けに関連する情報収集及び提供を行った。

特に韓国パラリンピック委員会においては東京都障がい者スポーツセンター視察の実施、中国パラリンピック委員会からの来訪が実現し、昨年度より継続している日中韓の関係強化を更に強めた。

また、ベトナムパラリンピック委員会を介して大分国際車いすマラソン大会への極東・南太平洋招待枠への選手招聘協力を行った。

令和7年度スポーツ庁委託事業においては、カナダパラリンピック委員会、スウェーデンオリンピック委員会より講師を招聘した。

3)国際組織への役員・委員の輩出等

現在獲得している国際組織の役員の選挙支援およびサポートを行った。IPC 理事についてロビイング活動を行い、現職のマセソン氏が再選を果たした。

*²IPC 理事 マセソン美季氏 (2025～2029)

*³APC 理事 安岡由恵氏 (2023～2027)

*³APC 理事/アスリート委員会委員長 三阪洋行氏 (2023～2027)

*²IPC・・・国際パラリンピック委員会 *³APC・・・アジアパラリンピック委員会 (AsPC)

4)国際資格取得・更新講習会

当協会が制定する「公認障がい者スポーツ指導者制度」に基づく講習会以外に、各競技団体における指導者の養成及び資質向上のため、競技別指導者講習会の支援を行った。また、海外で開催されるクラス分け等国際資格取得・更新講習会の助成募集も行った。

5)その他

① 令和7年度スポーツ庁委託事業

内容：IPC 理事選挙ロビイング活動、IF 他役員選挙ロビイング活動
女性リーダー発掘・育成事業、研修会実施

② 国際組織の表彰関連

- ・2025 PARA SPORT AWARD Best Team 賞 / 車いすラグビー日本代表チーム
- ・APC オーダー (APC 推薦) / 水野正幸氏 (前 APC 副会長)
- ・APC AWARD Best Team 賞 / 車いすラグビー日本代表チーム
- ・Virtus Award Best Team 賞 / 知的障がいバスケットボール女子チーム

③ FISU ワールドユニバーシティゲームズ (旧ユニバーシアード) への参加

内容：JOC 派遣となる大会への参加 (車いすバスケット 3 x 3 男子チーム)

ミッション5【共生社会実現に向けた国民の意識改革の促進】

パラスポーツの理解促進を通じて共生社会実現に向けた国民の意識変革を促すよう以下の事業を行った。

「5」パラスポーツの理解促進及び広報

(1)パラスポーツ大会等の開催

①JPSA 主催ジャパンパラ競技大会

競技名	開催日	会場
陸上競技	令和7年6月7日(土)～8日(日)	宮城野原公園総合運動場 弘進ゴム アスリートパーク仙台(仙台市陸上競技場)(宮城県仙台市)
車いすラグビー	令和7年7月24日(木)～26日(土) ※参加国：日本・ニュージーランド・韓国	ウイングアリーナ刈谷(愛知県刈谷市)
水泳	令和7年9月13日(土)～15日(月・祝)	日本ガイシアリーナ 名古屋市総合体育館レインボープール (愛知県名古屋市)
ゴールボール	令和7年10月3日(金)～4日(土) ※参加国：日本A、日本B・タイ・パキスタン	豊橋市総合体育館 (愛知県豊橋市)
アルペンスキー	令和8年2月15日(日)～16日(月)	信州菅平高原パインビークススキー場 オオマツゲレンデ(長野県上田市)

②パラリンピック競技：JPSA/JPC 主催・共催国際大会

ア)天皇杯 第51回記念日本車いすバスケットボール選手権大会

開催日： 令和8年3月6日(金)～3月8日(日)

開催場所： TOYOTA ARENA TOKYO(東京都江東区)

③JPSA 共催大会

ア)かすみがうらマラソン兼国際ブラインドマラソン 2025

開催日： 令和7年4月20日(日)

開催場所： 川口運動公園 J:COM フィールド土浦周辺(茨城県土浦市)

イ)文部科学大臣杯争奪第35回日本車いすツインバスケットボール選手権大会

開催日： 令和7年6月14日(土)～15日(日)

開催場所： 岐阜メモリアルセンターで愛ドーム【第一体育館】(岐阜県岐阜市)

ウ)第44回大分国際車いすマラソン

開催日： 令和7年11月16日(日)

開催場所： 大分県大分市内

エ)皇后杯第34回日本女子車いすバスケットボール選手権大会

開催日： 令和8年1月17日(土)～18日(日)

開催場所： グリーンアリーナ神戸(兵庫県神戸市)

オ)天皇盃第37回全国車いす駅伝競走大会

開催日： 令和8年3月8日(日)

開催場所： 京都市内(京都府)

(2) 『I'mPOSSIBLE (アイムポッシブル)』日本版の活用

一昨年度より継続して、今年度も既存教材をもとに、ICT化した授業で活用しやすい教材として第三弾を制作し、活用のための促進を行った。

1)教材改定

小学生版および中学生・高校生版「パラリンピックってなんだろう？」について、既存教材をもとに、ICT化した授業で活用しやすい、アニメーション映像等を中心とした教材を制作した。また、内容を補足するための「+アルファ映像」をパラリンピックに携わる様々な立場の方（パラリンピアン、パラスポーツカメラマン、義足製作者、東京2020パラリンピック大会開閉会式関係者等）に出演いただき、制作した。いずれも『I'mPOSSIBLE』日本版公式サイトより無償でダウンロード、または接続して使用できるようにした。

2)広報・普及活動

① 教員研修

対面1件、オンライン2件合計3件の教員研修会を実施し、93名の教師が参加した。また、これまで学校、または教育委員会単位で実施していたが、希望する教員が個人単位で参加できる研修も企画し、7月30日、8月6日に実施し、合計38名が参加した。

② 授業事例共有等

新しく制作した教材を使用した授業実施の様子を、映像で紹介するための動画を制作し、公式サイト上で公開した。(2件)

3)企業・外部組織との連携

公益財団法人ゴールドウイン西田東作スポーツ振興記念財団の主催する「富山県共生スポーツ協議会」に参加し、『I'mPOSSIBLE』日本版の考え方を該当地域に伝えるための活動を実施した。

日本車いすバスケットボール連盟との協働により、①『I'mPOSSIBLE』日本版授業×②車いすバスケット体験会×③車いすバスケット天皇杯学校観戦を組み合わせたプログラムを昨年度に続き実施した。

(3) 広報活動の充実

パラスポーツや共生社会に関する国民の理解促進を図るため、広報活動の充実を図った。具体的には①競技や協会事業等のパンフレット作成のほか、協会唯一の会報「NO Limit」内で身近な地域でのパラスポーツ情報を充実させること ②関係者だけでなく、誰でもパラスポーツに関連した情報を得やすい、わかりやすいウェブサイトの運営継続 ③ミラノ・コルティナ2026パラリンピック冬季競技大会の特別サイトを新規開設し、開幕までのSNS発信など適時かつ適切な広報展開などを意識した。

(4) マスメディアとの連携

パリ2024パラリンピック競技大会前後で国内マスメディアと一層の連携をし、開閉会式・競技の配信やニュース・新聞での多くの露出に繋がった。東京2020パラリンピック競技大会を契機に高まった世論の関心を維持・向上させるべく、JPSA・JPCのニュースリリース及び取材対応を丁寧に行い発信の充実を行った。

JPSA理事会・評議員会及びJPC運営委員会後のメディアブリーフィングを定例で開催した。また昨年に引き続き記者懇談会を開催し、会長をはじめとする幹部と交流する場を設け、各社へJPSA及びJPCの近況報告などを行った。

○JPSA/JPC 記者懇談会 令和7年10月20日(月) 17社36名参加

- ・ミラノ・コルティナ 2026 大会概要について(日本代表選手団 団長 大日方邦子)
- ・パラリンピック冬季競技大会のクラス分けについて
(JPC クラス分けマネージャー井土祐樹 / JPC クラス分けコーディネーター中田綾子)

ミッション6【JPSAの万全な基盤づくりの実現】

JPSAの組織体制の強化や、財政基盤の充実・安定化により、パラスポーツの発展に向けた万全な基盤づくりを図った。

「6-1」財政基盤の充実・安定化

(1)活動資金の安定確保

パラスポーツの普及拡大や競技力の向上などに係る事業を継続的、かつ、安定的に実施するためには、財政基盤の充実・安定化が必要であり、国等との緊密な連携のもとに国庫補助金や民間助成金の充実・確保及び公的資金や民間資金を活用した活動資金の安定的な確保に努めた。

(2)企業のスポンサー制度の充実

パラスポーツの価値・魅力の向上とパラスポーツファンの拡大等の活動を通じて、JPSAビジョンの「活力ある共生社会の実現」をともに目指すパートナーとして「JPSA オフィシャルパートナー」の企業数の拡大に努めている（令和8年2月1日現在31社、サポーター5社）。

またJPC オフィシャルパートナーについては、日本オリンピック委員会（JOC）と連携したオリ・パラ連携プログラムの実施により、ミラノ・コルティナ 2026 パラリンピック冬季競技大会に向けたイベント・アプルーバルを多く実施した。（令和8年1月1日現在11社）。

○令和7年度 JPSA パートナースミーティング

【ディレクター向け】

○第1回令和7年5月28日（水）実務者対象 29社66名参加

会場：サントリーホールディングス株式会社

内容：1.（企業事例紹介）サントリーホールディングス株式会社

2.デフスポーツ／聴覚障がいの世界を知る

一般財団法人全日本ろうあ連盟理事 スポーツ委員会事務局長 山田尚人様

3.パートナー企業所属のデフアスリートご紹介

あいおいニッセイ同和損害保険株式会社 松元卓巳選手 他

4.デフリンピック応援企画

○第2回令和7年12月3日（水）実務者対象 24社44名参加

会場：あいおいニッセイ同和損害保険株式会社

内容：1.（企業事例紹介）あいおいニッセイ同和損害保険株式会社

2.東京都からの情報提供

東京都スポーツ推進本部 スポーツ総合推進部 事業推進担当課長 渋谷徹様

3.地域の障がい者スポーツ環境の今を知り、未来を考えよう

公益財団法人笹川スポーツ財団 政策ディレクター 小淵和也様

一般社団法人日本バスケットボール連盟 副会長／代表理事 坪松博之様

① 数字でみる日本社会のパラスポーツ—東京2020大会後の現状と未来

② JPSA パートナー企業におけるパラスポーツの価値の検討

4.ジャパンパラ競技大会に関するアンケート調査について

5.JPSA パートナー企業とのご連絡における「キントーン」の導入に向けて

【エグゼクティブ向け】

令和8年1月28日（水）役員対象

会場：ロイヤルパークホテル

内容：スポーツ庁政策「(仮)スポーツ機会の創出、健康増進、共生社会の実現に向けて」
スポーツ庁 長官 河合純一／障害者スポーツ振興室 室長 遠藤翼

○JPC パートナースミューティング

令和8年1月14日（水）

会場：ナショナルトレーニングセンターイースト

内容：・ミラノ・コルティナ直前・今後のパラアスリート強化戦略について（仮）
谷本歩実強化本部長

- ・パートナー企業ミラノ・コルティナアクティベーション活動紹介
- ・ナショナルトレーニングセンターイースト見学

○JPSA パートナー対象のパラスポーツ観戦プログラム

目 的 スポーツに親しむ全国の障がいのある方にとって、目標とする最も身近な全国大会である「全国障害者スポーツ大会」を企業の皆様に観戦いただき、参加する選手のプレーや、大会運営やそれに至るハード・ソフト面の計画・整備等を肌で感じることを通して、パラスポーツの地域振興における大会の意義を感じていただく機会とする。

日 程 令和7年10月24日（金）～10月25日（土）※大会会期25日（土）～27日（月）

場 所 滋賀県

内 容 パートナー企業6社17名が参加し、やまなみ工房・京都太陽の家の見学の他開会式観覧、陸上、グランドソフトボール、ボッチャを観戦。

(3)寄付金募集の拡充

パラスポーツの普及・振興のための寄付を実施するほか、パラリンピックメダリストへの報奨金をはじめ選手の育成・強化、パラリンピックムーブメントの促進等を目的とした事業への募金活動を行った。特に新規の大口寄附金（企業）の取り込みに成功した。

「その他」JPSAの組織体制の強化

(1)JPSAの業務遂行体制の見直し・強化

組織体制・諸規程等の見直しやデジタル化の推進など業務遂行ルールを改善することにより、協会を取り巻くステークホルダーからの信頼を高めるとともに、必要最小の人数で最大の効果を上げるべく業務の最適化を図る。

(2)各専門委員会の効率的・効果的運営

各専門委員会（医学、技術）や専門部会の下に設置している各部会の役割を必要に応じて適宜見直し、機能強化と効率的・効果的な運営を図る。

(3)職員研修等の充実

職員の資質向上を図るため、ハラスメント防止等についての研修を行った。

→ミッション3

「3-3」競技団体・パラアスリートへのスポーツインテグリティの向上参照

その他

法人の運営体制の充実を図るための取組

1. 機関運営・役員体制の状況

- 適正な役員選任プロセスの運用 令和7年6月27日付の役員改選（任期：2年間）に際し、改正公益法人法（公益認定法）及び本会定款に基づく適正な手続きを履行した。
 - 選任プロセス：令和7年5月28日に「役員候補者選定委員会」にて承認、6月9日の「理事会」での候補者承認を経て、6月27日の「定時評議員会」にて選任された。
- 理事会構成の多様化と外部視点の活用 ガバナンス強化の一環として、理事会の構成における多様性と専門性を重視している。今回の改選により、以下の通り目標値を上回る構成を実現した。

➢ 外部理事割合：41.18%（目標：25%以上）

➢ 女性理事割合：47.06%（目標：40%以上）

これにより、外部の視点を取り入れた客観的な牽制機能および多様な視点に基づく意思決定体制を確保している。

- 役員報酬の適正管理と開示 役員報酬については、理事会及び評議員会にて承認された役員等の報酬規程に基づき、適正に管理・運用している。尚、現在の代表理事および業務執行理事（2名）については「無報酬」である。

2. 事業運営等の管理

- コンプライアンス委員会規程、利益相反マネジメント規程等に基づく適正な業務管理。
 - 令和7年5月28日のコンプライアンス委員会にて事業報告および利益相反の観点からの審議を実施。

3. コンプライアンスと透明性

- 内部通報窓口の設置と周知 組織内の不正行為等の早期発見および通報者保護のため、内部通報体制を整備し、役職員に周知している。
- スポーツ団体ガバナンスコードへの適合 スポーツ団体ガバナンスコードに基づくセルフチェックを毎年実施し、継続的な改善を行っている。
 - 実績：令和8年1月29日の臨時理事会にて競技団体適合性審査結果と共に当組織のガバナンスコードセルフチェック結果を確認した。

1. 会議開催等

(1) 評議員会・理事会等の開催

1) 評議員会

○定時評議員会

日時 令和7年6月27日（金）13:30～15:30

議案 令和6年度決算報告書（案）について
理事候補者（案）について

○臨時評議員会

日時 令和7年12月16日（火）13:30～15:30

議案 パラスポーツの普及拡大に関する事業について
競技力の向上に関する事業について
活力ある共生社会の実現に関する事業について

2) 理事会

○第1回定例理事会

日時 令和7年6月10日(火) 13:30～15:30

議案 令和6年度事業報告(案)について
令和6年度決算報告書(案)について
理事候補者(案)について
役員候補者選定委員会細則及び評議員選定委員会運営細則の一部改正(案)について
令和7年度定時評議員会の開催(案)について

○臨時定例理事会

日時 令和7年6月27日(金) 13:30～15:30

議案 臨時評議員会の招集について

○第2回定例理事会

日時 令和7年9月19日(金) 13:30～15:30

議案 臨時評議員会の招集について

○第3回定例理事会

日時 令和7年12月5日(金) 13:30～15:30

議案 臨時評議員会の招集について

○臨時理事会(書面決議)

日時 令和8年1月29日(木)

議案 スポーツ団体ガバナンスコード適合性審査結果について

○第4回定例理事会

日時 令和8年3月24日(火) 13:30～15:30

議案 令和8年度事業計画(案)について

3) 役員候補者等選定委員会

日時 令和7年5月28日(水) 15:00～16:00

議案 理事候補者の選定について

日時 令和7年11月13日(木) 15:00～16:00

議案 理事候補者の選定について

4) 評議員選定委員会

日時 令和7年5月28日(水) 15:00～16:00

議案 評議員候補者の選定について

(2) 専門委員会(技術委員会・医学委員会)の開催

1) 技術委員会

①代表者技術委員会(委員長と3部会長による会議)

日時 令和7年5月1日(木) 11:00～12:00

内容 令和7～8年度の各部会の活動計画について

②全体技術委員会(委員長、3部会の全ての委員による会議)

日時 令和7年5月1日(木) 13:00～16:00

内容 令和7～8年度の技術委員会の新体制について
JPSAの取り組みについて(事業報告、計画)
令和7～8年度の各部会の活動計画について

③育成部会

- 第1回 日時 令和7年6月16日(月) 15:00～17:30
内容 パラスポーツ指導員の資質向上研修会について
講習会のeラーニング化について
- 第2回 日時 令和7年11月17日(月) 14:30～17:30
内容 ブロック研修実行委員育成研修会について
eラーニングの進捗について
- 第3回 日時 令和8年1月26日(月) 14:30～17:30
内容 ブロック研修実行委員育成研修会の報告について
eラーニングの進捗について
資格取得認定校活動推進ワーキンググループについて

④競技部会

- 第1回 日時 令和7年9月29日(月) 13:00～16:30
内容 第24回全国障害者スポーツ大会について
(資格審査、リハーサル大会の報告、本大会視察のポイント等)
新障害区分・年齢区分改正についての作業確認について
スラローム競技における電動車いすの調査と今後の運用について
- 第2回 日時 令和7年11月28日(金) 13:30～16:30
内容 第24回全国障害者スポーツ大会の報告について
(大会視察の報告、競技規則改正のポイント等)
新障害区分・年齢区分改正についての作業確認について
水泳競技(リレー)の検討について
精神障害者の参加資格について
- 第3回 日時 令和8年1月22日(木) 13:30～16:30
内容 競技別技術指導員連絡会の報告について
令和7年度全国障害者スポーツ大会大会委員会について
令和8年度の競技規則改正について

⑤推進部会

- 第1回 日時 令和7年8月5日(火) 15:00～18:00
内容 令和7年度地域におけるパラスポーツの振興事業について
(選定委員会、委託費等の報告、委託団体の視察について)
(事業相談会、報告会の内容について)
(次年度の申請様式の見直しについて)
- 第2回 日時 令和7年11月21日(金) 15:00～18:00
内容 令和7年度地域におけるパラスポーツの振興事業について
(各団体の中間報告および執行状況について)
(視察報告について)
(事業相談会、報告会の具体的な方法について)
- 第3回 日時 令和8年2月24日(火) 15:00～18:00
内容 令和7年度「地域におけるパラスポーツの振興事業」報告会について
事業報告書の作成について
次年度の選定方針、募集要項について

2) 医学委員会

第1回 日時 令和7年6月30日(月) 18:30-20:00

内容 令和7年度に向けた体制について

(3)コンプライアンス委員会の開催

第1回 日時 令和7年5月28日(水) 9:30~10:30

議題 日本パラスポーツ協会事業報告(利益相反の観点から)
競技団体に関する状況報告

(4)パラスポーツ指導者協議会運営委員会の開催

第1回 日時 令和7年5月19日(月) 13:00~17:00

内容 パラスポーツ指導員の資質向上研修会について

第20回公認パラスポーツ指導者全国研修会について

第2回 日時 令和7年10月30日(木) 13:00~16:00

内容 令和7年度の公認指導者の登録・更新状況について

ブロック研修実行委員育成研修会について

第20回公認パラスポーツ指導者全国研修会の進捗について

令和7年度の助成金交付について

令和8年度以降の助成金交付要綱(案)について

第3回 日時 令和8年2月5日(木) 15:30~18:30

内容 第20回公認パラスポーツ指導者全国研修会の報告について

ブロック研修実行委員育成研修会の報告について

令和7年度の各ブロック、事業部会の活動報告について

令和8年度以降の助成金交付要綱について

令和8~9年度の体制について

(5)JPC 運営委員会の開催

※アクションプラン3-1 参照

(6)令和7年度 JPSA 合同会議の開催

対象 日本パラスポーツ協会登録団体

パラスポーツ協会、パラスポーツ指導者協議会、

パラスポーツ競技団体、パラスポーツセンター、都道府県政令指定都市主管課

日時 令和8年2月6日(金) 10:30~15:45

(7)表彰等

会長表彰等(特別功労章、功労章、特別賞、感謝状)

パラリンピック特別賞

その他の顕彰

日時 令和8年2月6日(金) 14:45~15:45